

令和4年度 学校自己評価システムシート(山口学院 埼玉平成高等学校)

目指す学校像(ミッション)	「文武両道」を実践し、新しい時代、新しい分野を切り拓く心豊かなリーダーを育てる進学校
---------------	--

本年度の重点目標	1 自己学習力の強化 (学習時間・読書数の定着、資格取得への取り組みの強化)
	2 進学指導 (指定校入試依存からの脱却、大学入試共通テスト受検を見据えた授業)
	3 部活動・自治活動の充実 (部訓整備、リーダーの育成、生徒主体の「生徒心得」の作成)
	4 教員研修 (外部研修、校内研修の実施、オンライン授業への迅速な対応及びビデオ教材の充実)
	5 募集活動を全体的に見直しながら定員確保を最重要課題として取り組んでいく。

評価	達成度
A	ほぼ達成(8割以上)
B	概ね達成(6割以上)
C	改善の兆し(4割以上)
D	不十分(4割未満)

＜自己評価委員会＞	
学校関係者	3名
内部委員	13名

学校自己評価					学校関係者評価			
年度目標				年度評価 ( 2月 21日現在 )			実施日:令和 5年 2月 21日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	評価指標	経過・達成状況	達成度	次年度の課題と改善策	
1	<p>(自己学習力の強化)</p> <p>本校の建学の精神である『成すことによって学ぶ』。これは創立者である山口茂先生の、「生徒自らがあらゆることに主体的かつ意欲的に取り組んでもらいたい」という願いがこめられたものである。その第1番目が「学習」であることは間違いはない。つまり「自ら主体的に学ぶ姿勢」これを養わせることが本校の教育目標の大きな柱であると言える。</p> <p>授業も単に教師の教師の説明を聞くだけのものではなく、生徒が能動的に学ぶスタイルを確立する一方で、学習習慣の定着を図るべく自宅で取り組むことを前提にした学習課題を用意する。</p> <p>本校の特色の一つである学習支援センターを積極的に活用することで、学ぶ姿勢を養わせる。</p> <p>新入生については、中学時代の学習内容に取りこぼしがある生徒がおり、特に数学・英語に目立つ。平日の学習時間が30分以下の生徒も半数近くおり、「中学時代の学習内容の定着」「習慣的に学習に取り組む姿勢の確立」が課題である。</p> <p>進路指導の年間計画を作成するにあたり、学年やコースに応じた進路イベントや各種ガイダンスを企画し、生徒一人ひとりのニーズに応えるべく丁寧な進路指導を心がける。</p> <p>「学習の3要素」「英語の4技能」などへの対応はもちろん、日々更新される様々な進路情報を敏感に取り入れながら、生徒や家庭に的確な情報を発信し、進路指導の一助とする。</p>	<p>『教わる』から『学ぶ』へ</p> <p>『受動』から『脳力』へ</p> <p>学習支援センター活用への奨励</p> <p>授業への意欲的な参加</p> <p>学習時間(枠)の確保</p> <p>自己課題への意識的な取り組み</p> <p>生徒の状況に合わせた行事等の企画・運営</p> <p>的確な進路情報の発信</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒自信に考えさせる授業を展開する。</li> <li>個々の生徒に自分の弱点の克服など、自身の課題を考えさせる。</li> <li>学習効果が高い点をアピールし、支援センターの活用を促す。参加生徒の目標を50名に設定する。</li> <li>4月のスタディーサポートの結果を利用し、学力のモニタリングを明確化する。</li> <li>夏休みまでの課題として、数学・英語の復習を行う。</li> <li>今未来手帳を活用し、学習計画(平日2～4時間の学習時間を目標)と実施状況を記録させる。</li> <li>生徒との2者面談の有効活用。</li> <li>学校実施を含む模試の分析とフィードバック</li> <li>英検やGTEC等の資格試験対策とその結果の分析と活用。英検については講前期までに準2級の全員取得を目指す。</li> <li>進路だよりの発行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の際に積極的な発言等が見られたか。</li> <li>生徒が自身に課題を課すことが出来たか。</li> <li>支援センターの利用者の増加、及び利用状況を数値化し確認する。</li> <li>週間・月間で学習時間が確保しているか。</li> <li>前月比で学習時間が増えているか。(1年終了時には概ね2時間以上の確保)</li> <li>アセスメントテストで課題を発見し、克服に取り組めたか。</li> <li>今未来手帳が活用されているか。</li> <li>各種行事でのアンケートでの満足度は得られたか。</li> <li>GTZや偏差値、得点率の達成状況</li> <li>検定試験の準2級以上の取得</li> <li>そのくらの頻度で進路だよりを発行できたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度はコロナ禍3年目となり、本校のオンライン体制も整い、リモート授業も増えた。教師自身が新たな試みを行い、ICT教育のきっかけをつかんだ。</li> <li>授業内の積極的な発言については、アンケートの質問4「5…大変そう思う」について生徒で4.5倍、保護者で6倍の増加をみた。</li> <li>「考える授業」に関しても、微増であるが増加の傾向がみられた。教師各々が工夫をするとともに、教務部、進路指導部の取り組みが功を奏していると考えられる。</li> <li>学習支援センターは考査前などに増え、長期休業前は減る傾向がある。本年度はピーク時で30名強で、目標には及ばなかった。</li> <li>今未来手帳の運用は安定的になっており、教師側も生徒の考えや行動を把握するうえで役立っている。家庭学習については概ね目標を達成した。</li> <li>漢検では2級、準2級、英検では1級、2級合格者も輩出し、今年度も一定の効果を得た。</li> <li>「進路だよりの発行」が発行された。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教室に設置されたモニターなどを利用しながら、より効果の高い授業を目指したい。</li> <li>読書数の目標設定を指導。</li> <li>学習支援センターの意義は大きく、引き続き生徒にPRしていく。放課後や部活後の時間の使い方としてアピールしたい。</li> <li>今未来手帳を生徒手帳と合わせ、より身近なものとして携帯できるようにする。</li> <li>目標を数値化し、平均レベルを上げる。最低ラインを3級とし学習意欲を高める。</li> <li>進路だよりの発行頻度を上げる。</li> </ul>	<p>コロナ禍からの脱却に向けて準備する。</p> <p>授業動画を、クローズの環境でもいいのでアップできないか。家庭でそれを見て復習する材料にしたい。</p> <p>学習支援センターの中でも個々の目標を持たせ、ただ机に向かっていただけとならぬようお願いしたい。</p> <p>今未来手帳は素晴らしい理想をもってスタートしたものであり、ぜひ継続して欲しい。ここに3年後の目標を書かせ、考えさせる。それが本校の目標とリンクしているかどうか、を検証して欲しい。教師と生徒が目標を共有できるように。</p> <p>検定などはパーセンテージで目標達成度をみていく。なるべく上位級を受験してもらいたい。</p> <p>進路だよりは継続をお願いしたい。</p>

2	<p>(進学指導)</p> <p>昨年度の進学者大学・短大・専門学校への進学は約95%であった。しかし、四年制大学への進学者の約6割は学校選抜型試験の指定校推薦での合格であり、残念ながら国公立大学への合格者はゼロという結果に終わった。本校の進学実績の向上を実現するためのここ数年来の課題は、指定校推薦に偏った進路選択からの脱却である。また、新たな指定校を獲得していくためにも、学校推薦型選抜の中の公募制推薦や総合型選抜(AO)、一般選抜での合格者を増やしていく必要がある。</p> <p>大学入学後のミスマッチを防ぐため、模擬試験を活用しながら、大学入学共通テストの受験を奨励することを前提とした授業を行う。</p> <p>大学生活に関する情報に触れる機会を増やす。</p>	<p>学力形成を背景にした進学指導</p> <p>一般入試合格への道しるべとなるような各種データの整備と分析。</p> <p>大学入学共通テスト受験を前提にした授業展開</p>	<p>・大学進学者の在学中のデータを入試形態別に示し、一般選抜、総合型選抜、学校推薦型選抜(公募制推薦入試)、大学入学交通</p> <p>テスト利用入試の合格データにより、指定校推薦に頼らない進路選択ができるシステムを構築する。</p> <p>・進学実績の短期目標(3年間)</p> <table border="1" data-bbox="786 483 1113 598"> <tr> <td>国公立大合格</td> <td>5名</td> </tr> <tr> <td>G-MARCH以上の合格者</td> <td>15名</td> </tr> <tr> <td>日東駒専</td> <td>30名</td> </tr> </table> <p>・上記目標達成を念頭に置いた入試からの逆算した授業、模試対策とその有効活用、勉強合宿集中講座、朝自習、学習支援センターの有効活用。</p>	国公立大合格	5名	G-MARCH以上の合格者	15名	日東駒専	30名	<p>・一般入試を基軸とした進路指導ができるデータができたか</p> <p>・一般入試、総合型選抜、公募制推薦入試の受験者数、合格者数が増えたか。</p> <p>・短期目標を意識した進学実績であったか</p> <p>・大学入学共通テスト受験を意識した授業が展開できたか。</p> <p>・卒業生等の大学生生活の生の声を進路だより等を通じ在校生たちに伝えることができたか。</p>	<p>・指定校推薦に頼らない進路選択をすすめた。なかなかすぐに効果が出るのは難しいが、一步一步進んでいる。</p> <p>・全校模試受験を導入し、データに基づく進路指導ができるようデータ蓄積を開始できた。</p> <p>・国公立大学には自己推薦型から積極的に出願したが、合格には至らなかった。失敗を恐れず挑戦したことを評価したい。早稲田大学、青山学院大学の自己推薦で成果があった。どちらも運動部の生徒であるが、スポーツ実績だけではない実力を評価されてものである。チャレンジすることの意義を示せたと思う。</p> <p>・「埼玉平成ニュース」には大学生の日課や1日の流れが特集されており、在校生にはとてもよい刺激になった。</p>	B	<p>・まだまだ数値化できる活動は多く残されており、データ化し翌年以降も活用できるようにする。</p> <p>・国公立大、私大の総合型選抜、学校推薦型(公募制)の学年ごとの調査研究とその情報提供をすすめる必要。</p> <p>・テーマ研究、検定試験などの励行</p> <p>・とにもかくにも、まずは挑戦する体質をつくるのが大切である。数値目標には達しなかったが、だからと言って目標を下げたり、指定校推薦に戻ってしまうことがないようにしなくてはいけない。</p> <p>・大学生の声を届けることは大切なことなので、引き続きこのような内容を継続したい。</p>	<p>3年生1学期にD判定が出ていれば一般受験で合格に結びつけられるという感覚が欲しい。</p> <p>校内模試のデータ活用をすすめる。今まで受かった生徒のデータを示し、「〇〇大学に合格した人は英検〇級、漢検〇級を持っていた」など、目標設定にする。データがバラバラで、整理できていないような気がする。</p> <p>確かに指定校をたくさん持っている高校のほうが安心感はあるが、保護者の感覚を「チャレンジ」に結びつけられるように。チャレンジする「過程」こそが人生で大切なことなのだと教えて欲しい。</p>
国公立大合格	5名													
G-MARCH以上の合格者	15名													
日東駒専	30名													

3	<p>(部活動)</p> <p>全校生徒加入制を取っている。各部がそれぞれの顧問教諭の指導の下、計画に基づきながら、日々の活動を行っている。特に運動部活動では全国や関東大会に出場するなど、大きな成果が出ている。また、学級や学年を離れた集団の中でお互いに認め合い、励まし合い、高め合いながら自己の存在や責任を見つめ、豊かな人間性や社会性を育成するのに役立っている。文化部のより活発な活動が望まれる。</p> <p>(自治活動)</p> <p>生徒会本部役員が中心となり、文化祭や体育祭を実施している。学期始めには校門にて挨拶の励行の呼びかけを行っている。また、災害時の義援金の呼びかけ、文化祭での収益の中からの小児用車いすの寄付なども行っている。より自治活動を活発にするために、生徒指導部主導の「生徒心得」から建学の精神、校訓に基づいた生徒会本部役員が中心になる「生徒会員心得」を作成し、埼玉平成の生徒として自信と誇りをもった行動の規範となるようにしたい。</p>	<p>生徒が自発的・自主的に活動を組織し展開している。</p> <p>・PCDAのサイクルを踏まえ、最適な運営がなされている。</p> <p>・生徒の興味関心に沿った活動になっている。</p> <p>・生徒会本部役員や上級生が手本となり、また下級生をサポートする雰囲気醸成。</p>	<p>・部訓や目標を具体的に明文化し、部員同士で意識を共有する。</p> <p>・部誌等を共有し生徒同士の相互理解をする。</p> <p>・リーダー教育を実施し、部員にフィードバックする。</p> <p>・活動内容を常に生徒のやるきや動機づけになっているかチェックする。</p> <p>・生徒会本部役員による「生徒会員心得」検討委員会を立ち上げる。</p> <p>・通学路のゴミ拾いを行う。</p> <p>・服装や乗車マナー向上を呼びかけ、お互いが気を付け合うようにする。</p>	<p>・部の目標が部訓、大会目標に示され具体的に活動しているか。</p> <p>・活動状況を顧問が把握し、安全で適切な活動がなされているか。</p> <p>・各部のリーダーを集めて、実施されたか。</p> <p>・「生徒会員心得」が作成されたか。</p> <p>・通学路のゴミ拾いや乗車マナーについて、HR委員や風紀委員による呼びかけがあったか。</p> <p>・校訓の「自律」が自覚されてきたか。</p>	<p>・今年も多くの部が全国大会や関東大会へ駒を進めた。これまで実績のあったソフトテニスやゴルフ、ハレーボールに加え、近年ではバスケットボールや卓球の活躍が目覚ましい。</p> <p>・部訓や部誌の整備は、徹底はまだできていないが、不文律化したものはある。これらを形にして残すことが大切であると思われる。</p> <p>・活動内容については細々と報告され、情報共有はなされている。アンケート上でも生徒や保護者の部活動に対する意欲は非常に高いものがあるので、少なからず動機付けには成功しているとみてよい。</p> <p>・通学路のゴミ拾いは、各運動部が生徒会主導で立ち上がり、朝夕の取り組みが始まった。</p>	A	<p>・指導者の高齢化もあり、新旧の引継ぎが問題になってくる。新たな指導者をどう育成していくかが課題である。</p> <p>・引継ぎに関して、部訓等の存在意義は大きい。次の指導者のためにも、マニュアルとして良いものは残し活用したい。</p> <p>・地域との係りやボランティア教育の一環としても、このような取り組みは大切であり、引き続き活動を進めていきたい。</p>	<p>部活はもっとPRしてよい。部活をウリにするなら、設備をもう少し整えてほしい。</p> <p>顧問の先生の確保を。働き方改革の流れからするとこれ以上顧問の先生の負担を増やすことはできないので、外部指導者の導入もいいのではないかな。</p> <p>地域活動が始まったのはすばらしい。大切なことなので継続して欲しい。</p>
4	<p>(教員の研修)</p> <p>日頃から生徒一人ひとりの学習状況に寄り添った指導を心がけている。教材研究はもとより、電子黒板やディスプレイを最大限活用した授業を模索している。また、教科内で授業の相互参観による意見交換や、入試情報分析の情報共有を行い、年間を通しての蓄積を図っている。</p> <p>コロナ禍でも学びを止めないために、オンライン授業の自宅受講実施に備える。また全49教室に大型スクリーンを設置し、生徒の五感を刺激する授業を展開する。中学1, 2年及び高校1, 2年生徒501名にクロームブックを配布し、映像や資料などを活用した授業や進学指導用教材を常時視聴できるよう整備している。</p>	<p>教科間の研修、外部研修会への参加。</p> <p>自学自習用教材の作成と蓄積</p> <p>生徒501名へのクロームブック配布の整備と具体的な活用方法の提示</p>	<p>・授業力向上のために、学部研修に年1回以上参加する。</p> <p>・相互授業参観を随時実施し、教科指導で使用する全49教室に大型スクリーンを設置し授業で活用する方法を研究する。</p> <p>・Google Formsを活用した小テストを定期的に実施するなど、オンラインによる生徒の授業理解の把握とデータの蓄積に努める。</p>	<p>・教科会議において外部研修に関する情報を共有し、全教員への周知と参加を徹底できたか。</p> <p>・全49教室に設置された大型スクリーンを活用した授業を展開できたか。</p> <p>・Google Formsで得られたデータを教科間で共有できたか。(スプレッドシートの閲覧を活発に行えたか)</p>	<p>・教科会の回数や時間が増え、授業への教師側の姿勢は向上した。数学科では自ら手を挙げ、外部研修に参加する若手教員も現れた。</p> <p>・全49室への大型スクリーン(液晶モニター)が完備され、多くの授業で活用が進んでいる。</p> <p>・1, 2年生にchromebookが配備され、授業内での活用が進んでいる。</p> <p>・ペーパーレス化の推進により、多くの場面で教育ソフトが活用された。特にGoogleFormsは欠席連絡や各種調査に積極的に利用された。</p>	A	<p>・chromebookの配備はできたが、それをどう使うかにはまだまだ勉強の余地はある。特に学習支援ソフトの選択・導入については、各教科からの意見を集約し進め行く。</p> <p>・大宮開成高校の授業見学。</p> <p>・数学研究会への参加など外部研修の実施、予備校などの大学入試問題解答解説会への参加などをすすめたい。</p>	<p>他校の授業を見学できるのは貴重である。ICT教育はもっと研究の余地がある。教師も多忙なので、専門家を配置してもいいのではないかな。</p> <p>他校の授業見学はどの情報共有はできているか。外の空気を吸うことで気が付くことが多い。</p>
5	<p>入学者数は232名にとどまり、募集定員を大きく下回った。(118名定員割れ)</p> <p>生徒募集の数値目標を以下のように設定し、その実現に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・志願者数目標 1, 500名</li> <li>・入学者数目標 390名</li> <li>・中学・塾回り 延べ 2, 000教室</li> </ul>	<p>定員確保を最重要課題とした生徒募集、広報活動</p>	<p>・中学、塾への訪問やHP,メール等を通じた、本校の情報提供の回数の増加。</p> <p>・「入試目安」を見直し、現状に即したより目安を設定する。</p> <p>・中学生とその保護者に、より本校に興味、関心を持ってもらえる募集行事の企画・実施</p> <p>・HPの継続的な改良。</p>	<p>・中学・塾への訪問回数</p> <p>・HP、メール等での情報発信数</p> <p>・募集行事への参加数</p> <p>・北辰テストの志願者増</p> <p>・入試志願者の延べ数</p> <p>・入学者数</p>	<p>・受験者数、単願者数ともに前年度から微増にとどまり、目標としていた爆発的な増加は果たせなかった。</p> <p>・新たに設置した「S特進選抜コース」は単願2名であり、まだまだ浸透しているとはいえない。</p> <p>・各募集行事では、手ごたえは感じられたものの、入学者増につながるものではなかった。</p>	B	<p>・入試戦略をもう一度見直し、本校の売りや体制を固めていく。特に進路指導、進路実績にはこだわりを持ち、数年をかけて「勝てる」体制を整えていくことが必要である。</p>	<p>実績を積み重ねていくしかない。進路指導などの結果が出なければすぐの改善は難しい。</p> <p>誰でも行ける高校には行きたくないもので、そこに行けば何ができるのか、を考える。</p> <p>補助金も手厚くなってきた。PRはしているか。特待生の魅力も年々薄くなっているのではないかな。</p>